

# I 京都舞鶴港の現況

## 1. 京都舞鶴港の概要

京都舞鶴港は、湾口が狭小であるにもかかわらず、湾奥が広いことから、湾内の干満差が最小限であり、又、周囲を山で囲まれていることから強風等を避けることも可能となるなどの特性により、船の荷役、停泊、接岸に適している。

重要港湾であるとともに北近畿唯一の国際港として、関西経済圏の日本海側の国際物流拠点の玄関口としての役割を果たしている。

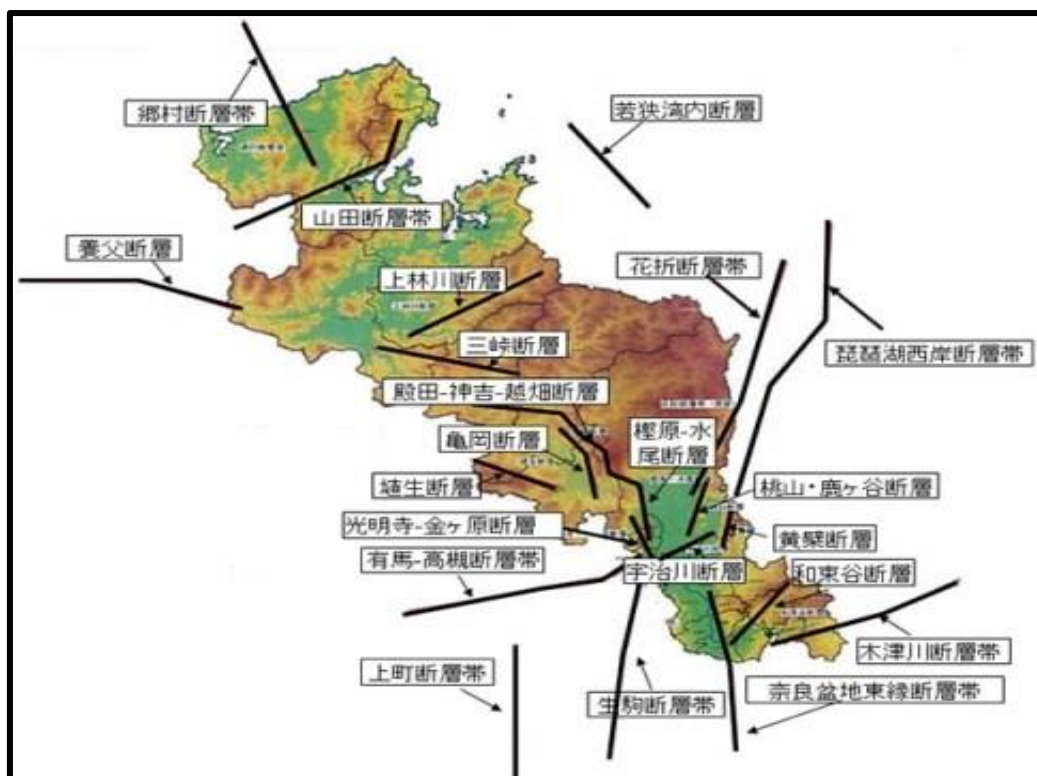


## 2. 地震等災害による京都舞鶴港の被害（想定）

### （1）地震

京都府地震被害想定調査（平成 20 年）で、府域への影響が懸念される活断層は、次の図－1のとおりである。

図－1 想定震源断層モデルの位置



この内、花折断層帯による地震が最も大きな影響があると想定されている。（最大予測震度 7、死傷者 81,300 人、建物全壊 148,400 棟）

舞鶴港を含む舞鶴市では、上林川断層による地震の被害が最も大きいと想定されている。（最大予測震度 6 強、死傷者 2,030 人、建物全壊 4,920 棟）

また、南海トラフ地震による舞鶴市への影響は、最大予測震度 5 強（府内は 6 強）、死傷者数 40 人（死者 0、府内は死傷者数 15,510 人）、建物全壊 160 棟（府内は 15,740 棟）と想定されている。

なお、上林川断層による地震に伴う液状化危険度については、舞鶴西港で危険度が中、舞鶴東港では危険度が低となっている。

### （2）津波

平成 28 年 3 月 28 日に公表された「京都府津波浸水想定（※）」では、舞鶴市の浸水面積（陸域において 1 cm 以上の浸水が発生する面積）は 158.6 ha となっており、この内、京都舞鶴港の各ふ頭については、0.3～1 m の津波が発生するとされている。

また、津波浸水予測時間は概ね 30 分以上 1 時間未満となっているが、国際ふ頭、第 1 ふ頭及び第 2 ふ頭の一部については 10 分未満で浸水が始まるとされている。

※京都府津波浸水想定

平成 26 年 9 月に「日本海における大規模地震に関する調査検討会」（事務局：国土交通省）が公表した 60 の断層及び過去に発生した津波から京都府に影響が大きい断層を選定し、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）の最大値を重ね合わせて表したもの。京都府域の浸水域、浸水深、最高津波水位、海面変動影響開始時間、浸水予測時間を想定。（資料－ 1 及び 2）

図－ 2 津波浸水想定図及び津波浸水予測時間図（抜粋）

